

千葉の獅子頭 150年目 石川の技で復元

加賀獅子頭 + 美川仏壇

保存会に引き渡し

26日の夏祭り
で披露



加賀百万石の技でよみがえった夫婦獅子頭
—美川町新町の北島仏壇

高さが約十センチ低い。

獅子頭を所有する木更津市の桜井片町獅子舞保存会が関東地区では満足に行く業者が見つからず、千葉県の紹介もあり、昨年十二月、加賀獅子頭の知田工房（鶴来町八幡町）と美川仏壇の北島仏壇（美川町新町）に修復を依頼していた。

修復前はまゆや巻き毛の一部が欠け、漆ではない化学塗料で補修したため、光沢が失われるなど保存状態がより悪化していた。知田工房の知田清雲さん（左）と善博さん（右）親子が損傷箇所を削り直して型を復元し、北

幕末期に制作され、損れ、メンバーは約百五十傷が目立っていた千葉県 前の状態を思わせる見事木更津市の夫婦獅子頭がな出来栄えに見入った。加賀獅子頭と美川仏壇の 今月二十六日の地元の夏漆を七回重ね塗るなどの工夫を凝らした。

島仏壇の北島与八郎さん（左）と昭浩さん（右）親子が耐久性を高めるために漆を七回重ね塗るなどの工夫を凝らした。

百万石の伝統工芸の技に 修復された夫婦獅子頭 引き取りに訪れた同ほれ込んだ木更津の獅子は一八四八（嘉永元）年 保存会の鶴岡清次副会舞保存会からの依頼で鶴に制作されたヒノキ製の長は「職人の息づかいを来町と美川町の職人が修「黒獅子」で、雄獅子は感じる立派なものに仕復した。十一日、美川町 高さ九〇センチ、幅一・二メートル上があった」と満足げに話で保存会員に引き渡さで重量七十キロ、雌獅子はした。